

特定非営利活動法人 神奈川子ども未来ファンド 2005 年度事業報告書

2005 年度（2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日）

子どもの育ちを社会で応援していく必要性を広く発信し、神奈川子ども未来ファンド（以下、ファンド）の認知を高め、更なる協力を呼び掛けるために様々な取組みを行いました。各種企業、団体、個人のご協力による募金キャンペーンの実施、寄付協力の機会をつくるチャリティイベントにも取り組みました。各種企業への協力依頼活動には「日本興亜おもいやりプログラム助成」の支援を受け、事業実施にはファンドサポーターや県内の子ども・若者や子育てにかかわる NPO の参加、協力を得ました。

また、3 度目の助成となる 2006 年助成の公募・選考を行い、総額 2,385,000 円を 8 団体へ助成しました。子ども・若者や子育てにかかわる NPO の活動を情報面で支援するための WEB サイトの充実、メルマガ発刊などにも取り組みました。

ファンド改革検討委員会を設置し、ファンドの評価、課題整理を行う組織・助成・資金調達の視点からの検討を行いました。組織運営体制では、これまで事務局業務は、アリスセンターの支援をうけてきましたが、一層の活動の展開と支援者との連絡調整がはかれる体制を目指し、ファンド事務局として独立しました。日産自動車（株）が実施する社会貢献プログラム「日産 NPO ラーニング奨学生制度」の協力団体として、インターン生の受入を行いました。

1 各種寄付プログラム実施と寄付の受け入れ

- ◆ 2005 年度寄付総額： 3,677,899 円（内訳下表参照）（2004 年度比+65,418 円）
- ◆ 寄付協力組織数： 64 件（昨年度比+1 件）
- ◆ 定期定額募金登録・個人寄付者数： 312 件（昨年度比+233）
- ◆ 募金箱設置数： 43 件（昨年度比+7 件）

種 別	金額(円)	割合	協力個人	協力組織数
企業からの寄付	1,000,000	27%		企業1社
職域での寄付・企業寄付	1,246,964	34%		企業5、組合2、他組織2
キャンペーンを通じての寄付	318,502	9%	222 名	企業 8、店舗1、組織 19
定期定額募金(コーヒー募金)	347,500	9%	66 名	
他組織からのチャリティイベント収益寄付	207,139	6%		17 件
マイバッグ寄付プログラム	28,244	1%		商店街1
応援商品寄付プログラム	17,000	0.004%		企業1社
ゴルフコンペを通じた寄付	28,000	1%		1件
書籍収益寄付	7,600	0.002%		1件
募金箱	246,774	7%		43 件
個人からの寄付	141,600	4%	24 名	
単発の寄付	88,576	2%		5 件
合 計	3,677,899	100%	312 名	

(1) 2005年度の寄付協力

既存のプログラムの継続実施に加え、寄付受付環境の充実として、オンライン寄付（インターネット上でのネット決済による寄付申込）を受付けることができるようになりました*。

また、日本興亜思いやり助成の支援を受け、企業・組合などの組織との連携による継続した寄付プログラム開発のために、組合・企業・各種組織との関係づくりに努めました。

◆オンライン寄付ページ <http://www.gambanpo.net/esgn/ESGN0320.cfm?ID=162>

*受付開始：2005年12月26日

*市民とNPOをオンライン寄付でつなぎ、「NPOを応援するライフスタイル」の実現をめざす「ガンバNPO」の仕組みを利用

(2) イベント・キャンペーンの実施・参加

様々な組織のご協力、ご協賛を得て、参加することで寄付ができるチャリティイベント・キャンペーンを開催しました。また、多くの人が集まる機会に出店や展示参加を行い、広く市民や企業、組合などにファンドの認知を高めるよう取り組みました。

◆ 新聞記事掲載 7件（神奈川新聞）

◆ 雑誌掲載 1件（「クーヨン」クレヨンハウス発行）

① チャリティにんぎょう芝居「つき豆ダンゴだるま森」

●開催日程： 2005年9月17日（土）午後2回上映

●会場： 横浜ワールドポーターズ イベントホール

●参加者数： 170名

●主催： 同実行委員会、神奈川子ども未来ファンド

●後援： 神奈川県、横浜市、川崎市、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、読売新聞横浜支局、FMヨコハマ、TVK（テレビ神奈川）、アール・エフ・ラジオ日本

●協賛： タカナシ乳業(株)、(株)ベネッセコーポレーション、全労済神奈川県本部

●協力： (株)崎陽軒、横浜ワールドポーターズ

② こどもまつり 2006

●開催日程： 2006年3月11日（土） 10～15時半

●会場： 日産スタジアム 西ゲート前広場

●参加者数： 約1,000人（スタジアム動員数32,000人）

●主催： 同実行委員会、神奈川子ども未来ファンド

●後援： 神奈川県、横浜市、川崎市、神奈川新聞社、(財)横浜市スポーツ振興事業団、TVK（テレビ神奈川）、朝日新聞横浜総局、毎日新聞横浜支局、FMヨコハマ、アール・エフ・ラジオ日本

●協賛： タカナシ乳業(株)、(株)ベネッセコーポレーション、神奈川新聞厚生文化事業団

●協力： 日産スタジアム、横浜マリノス(株)、(株)横浜ベイスターズ

【展示・広報・出店等での参加】

① 第76回かながわ中央メーデー

- 開催日程： 2005年4月29日（祝）
- 会場： みなとみらい臨港パーク
- 出店内容： 協賛企業協力による飲料提供と募金活動、ペンシルバルーン釣り
- 主催： 同実行委員会（事務局連合神奈川）

② 神奈川県主催 フリフリフリマ（青少年のサポートを行うNPOの活動紹介・相談活動）

- 開催日程： 2005年9月3日（土）
- 会場： 神奈川県立青少年サポートプラザ
- 出店内容： 協賛企業協力による飲料提供と募金活動、ペンシルバルーン釣り
- 主催： 同実行委員会（事務局神奈川県民部青少年課）

③ NPO フェスタ

- 開催日程： 2005年9月10日（土）
- 会場： 座間市ハーモニーホール
- 出店内容： 協賛企業協力による飲料提供と募金活動
- 主催： 日本青年会議所関東地区 神奈川ブロック協議会

④ たまたま子育て祭り

- 開催日程： 2005年9月18日（日）
- 会場： 川崎市多摩市民館
- 出店内容： 協賛企業協力による飲料提供と募金活動
- 主催： 同実行委員会・川崎市多摩区

⑤ 知事と語ろう 神奈川ふれあいミーティング「子育て・子育て『かながわぐるみ』」（広報ブース）

- 開催日程： 2005年10月23日（日）午後
- 会場： 神奈川近代文学館
- 出店内容： 広報パネル展示、パンフレット・チラシの配布
- 主催： 神奈川県

⑥ モトスミ・ブレイメン通り商店街 フライマーケット

- 開催日程： 2005年11月13日（日）
- 会場： モトスミ・ブレイメン通り商店街
- 出店内容： 商店街関係者物品提供によるフリーマーケット・ゲーム、アートバルーン、ポップコーン販売、PR活動
- 主催： モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合
- 協力： モトスミ・ブレイメン通り商店街振興組合・全労済神奈川県本部

⑦ 企業とNPOの子育て支援協働推進セミナー2006（パンフレット配布）

- 開催日程： 2006年2月18日（土）
- 会場： 弘済会館
- 主催： （財）こども未来財団・社）フィランソロピー協会

2. 民間非営利組織への助成・技術支援

(1) 2005 年助成対象団体への技術支援

運営促進助成対象団体に、助成金を効果的に活用してもらうことを目的に実施をしました。全ての助成対象団体が、各団体が希望をした内容の支援を受けました。

- 対 象： 2005 年度運営促進助成対象団体
 - 内 容： NPO 実務（会計）・NPO 法人格・委託契約・新規事業開始等の組織・事業運営に関する相談
 - 方 法： 団体の希望に応じて、以下の専門家から 1 名が、団体を訪問。相談、アドバイスを行いました。（ファンド事務局が同行）
- 【相談対応をいただいた専門家の方々】**
- * 早坂毅氏（税理士）
 - * 細野由美子氏（税理士）
 - * 堀真一郎氏（社会保険労務士・中小企業診断士）
 - * 川崎あや氏（まちづくり情報センターかながわ事務局長・ファンド理事）

(2) 助成プログラムの見直しと変更

ファンド改革検討委員会（後述）の検討を経て、助成プログラムの見直しを行い、2006 年助成より変更後のプログラムでの公募を行いました。

【変更のポイント】

①総合助成金への変更

2005 年助成までの「運営促進助成」と「事業費助成」という二種類の助成プログラムを見直し、運営費や事業費の区別なく使える総合助成金としました。

総合助成金は、自由度の高い助成金であり、また活動団体の新しい取組み、チャレンジを支援する助成金としました。対象となる事業としては、次のようなものを想定しました。組織運営上の課題を解決し、継続して活動を行うための基盤強化事業、県内の子どもや若者の育ち・子育てに関わる課題・テーマに対する先駆的・実験的事業、複数の NPO が連携して新たに取組もうとするネットワーク事業等。

②子ども・若者や子育てに関わる人が地域の中で育ちあう「場」への助成に特化

「運営促進助成」と「事業費助成」の区別をなくすのに伴い、見直し後は、子ども・若者や子育てに関わる人が地域の中で育ちあう「場」への助成に特化させました。

また、2005 年助成までの運営促進助成は、対象条件を「週 3 日以上活動を 2 年以上継続」としたが、「週 2 日以上活動を 1 年以上継続」に条件を緩和させました。

③継続助成する場合の限度を、3 年までと規定

単年度での助成を基本としました。ただし長期的視点と計画性があり、選考委員会によって必要が認められた事業については、最長 3 年までの継続助成を認められるものとしました。

（報告と応募を年度ごとに行う点は、これまで同様）

(3) 2006年助成選考委員会設置と選考

各方面の専門家による2006年神奈川県子ども未来ファンド助成選考委員会を設置し、選考委員会にて選考基準、選考方法を決定の後、対象団体の選考を行いました。

【2006年助成選考委員】

委員長： 鈴木一男氏（株ダイイチ代表取締役社長）
副委員長： 伊藤聡子氏（(財)日本国際交流センターチーフプログラムオフィサー）
委員： 鈴木祐司氏（(特)青少年育成支援フォーラム国内事業統括）
柴田愛子氏（絵本作家・(有)りんごの木代表）
小村陽子氏（横浜弁護士会「子どもの権利委員会」委員）

【2006年助成選考委員会開催状況】

第1回 2005年11月29日（火）15時～17時 かながわ県民活動サポートセンター会議室
第2回 2006年3月9日（木）13時～16時半 かながわ県民活動サポートセンター会議室

(4) 2006年助成対象団体の決定と実施

2006年助成（予定総額2,400,000円）を県内NPOへ広く広報し、助成説明会を平日午前・平日夜間の2回を開催し20団体からの参加、問い合わせを得ました。応募を受理した12団体から選考委員会の選考に基づき、6団体に総額2,385,000円を助成することを決定し、次の通り助成を行いました。

【2006年助成対象団体】助成総額 2,385,000円（応募総額 5,098,500円）

	団体名	事業内容	金額
1	カラカサン ～移住女性のためのエンパワメントセンター	フィリピンにつながる子どもサポート 協同事業	500,000
2	ことぶき学童保育	ことぶき子ども広場	500,000
3	まんま(NPO法人申請中)	利用者からスタッフへ。子育て期の 女性支援のスムーズな循環を目指して	400,000
4	茅ヶ崎公園自然生態園管理運営委員会	水辺探検隊	235,000
5	ウエスト神奈川女性の人権を守る会	心身ともに傷ついた子どもへの支援とケア	350,000
6	(特)ままとんきっず	子育てサロンの充実と親育て事業	400,000

3. 子ども・若者、子育てに関する活動調査と情報収集・提供

(1) WEBサイトの充実

2004年度に開設した子どもの居場所情報を検索できるデータベース「子どもの居場所情報箱（以下「情報箱」）」の情報更新や神奈川県内の子ども・若者や子育てを応援するNPOが応募できる助成金情報の掲載も開始し、情報面でのNPOサポート体制を強化させました。

- ◆ WEBサイト 2005年度アクセス数 約11,400件（昨年度8400件）

(2) メールマガジンの創刊、広報紙発行

これまで発信してきた紙媒体での広報紙に加えて、ファンドの活動や助成対象団体の活動報告の頻度を高めること、またWEBサイトで紹介をしているイベント・ボランティア募集・助成金情報をより身近に届けることを目的に、メールマガジン（毎月15日発行）を創刊させました。

- ◆ メールマガジン 2005年4月創刊、配信登録数約537件（2005年3月31日現在）
- ◆ 広報紙「ハンズ to ハンズ」6号～9号
6～7号（3,000部）8～9号（2,000部）発行

(3) 神奈川県放課後児童健全育成事業等調査の実施（神奈川県（保健福祉部子ども家庭課）委託事業）

神奈川県が、かながわぐるみ・子ども家庭応援プランに沿って、小学生の放課後の望ましい過ごし方についての検討・研究、関係する指導者やボランティアに望まれる知識や技能等の基準や養成研修を検討するために行った調査をファンドが受託実施をしました。

県内市町村が実施している、放課後児童クラブ、全児童対策、居場所づくり事業実施主体等の現状を把握し、課題等を抽出するために、特に、指導員研修の現状と課題を中心にヒアリング調査を行ないました。

(4) 横浜市次世代育成支援関連企業懇談会の企画運営（横浜市（子育て支援事業本部地域子育て支援課）委託事業）

横浜市が、次世代育成支援行動計画に基づき「企業の子育て支援が推進されている」という目標実現のために、横浜市内の先進的取組みを行う企業、市関連部署担当者、NPO等外部識者から構成される懇談会を設置、今年度内に3回実施されました。ファンドは、この懇談会の企画運営を受託し、企業取り組み、そのための行政支援、企業・NPO・市民・行政の協働の可能性等について、現実的な課題整理とアイデア検討、整理を行いました。

(5) 講師派遣

ファンド事務局が、2005年度に対応した講師派遣依頼や各種審議会・委員会は、次の通り

【講師派遣】

- 明治大学経営学部 NPO 経営論ゲスト講師（2005年6月22日）
- 中央共同募金会募金フォーラムパネリスト（2005年6月29日）
- 座間市北公民館子育て支援講座講師（2005年7月1日）
- NPO 地球市民かながわ定例会講師（2005年9月4日）

相模原市男女共同参画支援子育て講演会講師（2005年9月27日）
横浜市港北区社会福祉協議会 NPOの広報講座講師（2006年2月9日）
横浜商工会議所女性会例会講師 少子化について（2006年3月1日）
川崎市市民活動支援センター NPOの資金調達講師（2006年3月1日）

【各種審議会・委員会】

神奈川県地方税制等研究会税と暮らしを考える専門部会委員
横浜市児童福祉審議会委員
横浜市男女共同参画推進審議会委員
横浜市地域福祉計画策定・推進委員会委員
横浜市親と子のつどいの広場運営協議会委員
横浜市ボランティアセンター運営委員

4. 神奈川子ども未来ファンドの改革に関する取り組み

（1）神奈川子ども未来ファンド改革検討会の設置（日本財団助成事業）

設立後3年目（任意組織発足後5年目）を迎えるファンドの現状と課題を整理・評価し、今後5年程度を見据えた改革の方向を探るために、ファンド改革検討会を設置しました。検討会は、ファンドの準備段階で関わった外部有識者、助成選考に関わる外部有識者、ファンド外部支援者、ファンド関係者で構成し、ファンドの経営・仕組みの柱である①組織、②助成、③資金づくりについて検討を行いました。

検討の結果、理事会の機能整理、運営体制のあり方、理事が関わる団体や助成対象団体のファンドへの関わり、助成プログラムの総合助成金化等、ファンドの見直しに関する方向性について、様々な提言をいただきました。

【検討会委員】（肩書きは就任当時のもの）

検討会委員長：渡辺元氏（市民社会創造ファンド運営委員）
検討会委員：桜井陽子氏（横浜市男女共同参画センター横浜館長）
鈴木祐司氏（青少年育成支援フォーラム国内事業統括）
鈴木健一氏（外部支援者）
粕谷史郎氏（外部支援者）
中村茂氏（外部支援者）
西野博之（ファンド理事長）
綿引幸代（ファンド理事）
米田佐知子（ファンド事務局長）

【検討会開催状況】

第1回 2005年3月29日 かながわ県民活動サポートセンター会議室
第2回 2005年4月22日 神奈川青少年サポートプラザ NPO活動室
第3回 2005年5月22日 かながわ県民活動サポートセンター会議室
第4回 2005年6月8日 かながわ県民活動サポートセンター会議室

5. その他 運営状況

(1) 神奈川子ども未来ファンド事務局の独立

ファンドは、2度の助成を実施し、今まで以上の活動の展開が求められるようになりました。また、外部支援者の増加に伴い、連絡や調整により力を注げる体制づくりが急務となり、発足当初からファンド事務局は、まちづくり情報センターかながわ（アリスセンター）から支援を受けてきましたが、事務局を独立させました。

(2) 日産NPOラーニング奨学生の受入

日産自動車株式会社が実施する社会貢献プログラム「日産NPOラーニング奨学生制度」に協力し、学生の受け入れを行いました。2005年度インターン生、関幸恵さんには、2005年助成対象団体を始めとする県内NPOの訪問レポートをHPやメールマガジンを通じて発信してもらったほか、夏のキャンペーンイベントの運営、資金調達依頼訪問活動など、民間ファンドの様々な活動を体験してもらうことができました。

(3) 支援会員制度の創設と会員数の増加

神奈川子ども未来ファンドの組織基盤を支えるために、法人の社員以外の支援会員制度を創設し入会を呼びかける取組みを行いました。

【会員数】

コア会員（法人の社員）	30名（前年度比+10名）
サポート会員	20名（26口）
賛助会員	4名（4口）

以上